

●ムネアカオオアリ(*Camponotus obscuripes*)とは

ムネアカオオアリは北海道、本州、四国、九州に広く分布するアリです。土壌中よりも朽木や落ち葉の内部に営巣する事が多く、名古屋近辺の里山の朽木などでよく見掛けます。

名前の通り胸部が赤く、腹部に微小な毛が見られます。女王アリは15mm程度、働きアリは10mm程度の大きさで、日本最大のアリの仲間です。他のアリと比べあまり群れる事は無く、単独で狩りを行います。



## ●ムネアカオオアリとアブラムシの仲間の共生関係①



ムネアカオオアリはアブラムシやカイガラムシなどの仲間と共生関係を形成します。アブラムシやカイガラムシは植物の樹液(師管液)を吸い取り、糖分が豊富な排泄物(甘露)を排出します。

ムネアカオオアリはこの甘露を得る代わりに、アブラムシやカイガラムシの天敵であるテントウムシや寄生バエなどを威嚇して排除します。いわゆる“ボディガード”ですね。



## ●ムネアカオオアリとアブラムシの仲間の共生関係②



左写真の様にムネアカオオアリは甘露を提供してくれるアブラムシやカイガラムシの仲間の周りを巡回しながら排出された甘露を集め、同時に外敵の接近を警戒します。

右写真では甘露に引き寄せられてきたハエの仲間に対して鋭い牙を向けて威嚇しています。このようなアリとアブラムシやカイガラムシの仲間の共生関係は生態や進化のモデルとして非常に重要です。